

令和6年度 京都府立清新高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
一人一人のペースを大切にしながら、社会とつながる学びを通して、自立心・主体性を身につけさせ、地域で活躍しようとする生徒を育てる。	【成果】 ・地域連携の推進及び3系列の特徴的な学びを生かした取組の充実 ・学校行事、生徒会活動の充実 ・ICT活用や学習用端末の利用促進 ・施設設備の充実と居場所づくりの推進 ・教職員の働き方改革の推進と長時間勤務縮減の取組の充実 ・勤労体験やインターンシップの取組の充実と関係作り 【課題】 ・希望進路の実現に向けた進路指導の充実とキャリア教育の推進 ・人権意識の高揚とルールやマナー等の徹底 ・自身の健康への理解と健康増進の取組の充実 ・生徒、保護者目線の広報活動の展開 ・指導と評価の一体化の進展 ・課外活動の充実と社会参画意識の高揚	1 生徒一人一人の自立心・主体性の育成を目指した、支援・指導体制の充実 2 分かる授業づくり、指導と評価の一体化の進展 3 人権感覚の育成及びルールやマナー、モラル等の理解教育の推進 4 心身の健康の保持及び増進 5 卒業後を見据えた進路指導及びキャリア教育の推進 6 開かれた学校づくりを目指した、地域連携及び広報活動の充実

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

（A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった）

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価		成 果 と 課 題
組織・運営	地域の人材活用による学びの一層の推進	地域おこし協力隊（地域コーディネーター）と連携し、地域の産業を踏まえた連携先・連携内容の開拓・充実を図り、地域の特性を理解し丹後の魅力を再発見する活動、郷土愛を醸成する活動を実施する。 【 年間実施回数 A：10回以上 B：7～9回 C：4～6回 D：4回未満 】	A	B	総合的な探究の時間、郷土探究、ビジネスコミュニケーション、生活クラフト、和太鼓部を中心に、地域の人材や企業等の協力を得ながら地域の良さや探究学習ができています。 特に総合的な探究の時間では、1つのグループに複数回訪問いただき、長期的に関わっていただいた。 【年間実施回数 14回】
	開かれた学校づくりを目指した広報 活動の一層の推進、広報手段の検討 と内容の整理	授業や各種行事など、生徒の取組や学習内容、生徒の頑張りを、スピーディに紹介する。 【 学校評価アンケート肯定的評価 項目：「開かれた学校づくり」に向けた広報活動が充実 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】	C		学校HPやFacebook、Instagramにて各種行事や授業の取組等を紹介できている。 学校評価アンケートでは、概ね肯定的評価を得ているが、教科の偏りがあるため、今後も継続して記事の更新を行っていく。 【学校評価アンケート（前期・保護者88%・生徒81% 平均84.5%）】
		学校HPやフェイスブックに加え、学校通信（SeishinTimes）を発行し、公民館掲示や地区回覧板への掲載により、生徒の取組や学習内容を地域に紹介し、生徒の頑張りをアピールする。 【 年間HP更新回数 A：70回以上 B：50～69回 C：30～49回 D：30回未満 】	B		今年度は学校HPの更新を54件行い、Facebook、Instagramは14件ずつの更新を実施した。また、学校通信を年4回発行し、後半2回は中学2年を意識して探究に関する記事にした。地域の方へはバイオ液肥の無料スタンドを設置した記事にすることで、足を運んでもらえる環境づくりを行った。 今後も、清新高校の魅力ある教育活動の発信を増やしていきたい。
	3系列の特性を生かした校内体制の整備（連携の強化）及び地域連携の充実	各系列の特性を生かし、栽培・加工・販売を通した清新ブランドの商品開発等、系列を超えて連携した取組の充実を図る。奈具丘祭での発表をはじめ、それらの活動を通して地域とのさらなる連携を図る。 【 年間実施回数（系列を超えた取組） A：8回以上 B：5～7回 C：3～4回 D：3回未満 】		B	丹後万博をはじめ、奈具丘祭など野菜や加工品などの販売を行っている。 また奈具丘祭では、地域からは約340名程度の来場者が来られ、各系列の取組を展開できた。栽培・加工・販売を通した清新ブランドの商品開発については、今年度取り組めておらず次年度に向けての課題が残った。

学校運営協議会、PTA組織との協力 体制の構築	PTA役員が積極的に会員に参加を促し、PTA 行事を活発に行う。PTA行事や学校行事等を通して保護者と教職員が理解と信頼を深め、家、学校、地域が連携しながら生徒の成長を見守り支える体制作りを進める。 【 取組の年間実施回数 A：8回以上 B：5～7回 C：3～4回 D：3回未満 】	A	B	文化祭において模擬店を出店し、パン・飲料の販売を行った。体育祭では熱中症予防のため飲料の提供をした。交代で玄関前に立ち、交通安全指導と挨拶運動を行った。学期末にはPTA会報を発行した。会員研修・親子行事ではパンケーキづくりを行った。PTA総会では役員決定に関して新しい提案を行った。 取組の年間実施回数 A：8回以上
	学校運営協議会を開催し、学習活動や各種行事、PTA活動等についての意見を聞き、効果的な学校経営に活かす。 【 委員8名の年3回の会議への参加人数計 A：22人以上 B：18～21人 C：14～17人 D：14人未満 】	D		協議会の中で、授業参観など本校の活動状況について積極的に伝え、テーマに応じた意見交流も行うことができた。しかし開催期日が遅く、いただいたご意見を年度内の学校経営に効果的に生かし切れなかった。
教育環境の充実、整備	教育環境の充実に向け、施設設備の改修に取り組むとともに、限られた施設の有効活用とCT環境の一層の充実を図る。 【 学校評価アンケート（生徒） 肯定的評価項目：学習に向けて頑張ることができる 教育環境や施設・設備が整っている A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】	B		教材倉庫横の有休スペースを模様替えし、テーブル、ソファ等を設置し新たに憩い・相談等できる居場所を整備した。男女更衣室に個室用カーテンを設置した。暖房便座への取替を行った。1-2の空調故障の対応が、後手になり教室移動を依頼することがあった。 学校評価アンケート（生徒） 肯定的評価89%
安心、安全な教育環境の充実、整備、維持管理	危険箇所の早期発見、教職員全員での情報共有と、その改善・老朽箇所の整備を進め、安心安全な教育環境の維持管理を図る。 【 定期的な校内巡視の実施 A：年12回以上 B：年10～11回 C：年8～9回 D：年8回未満 】	B		実施回数：11回（3月実施予定含む） 体育科からの要望で、体育館倉庫の改修を実施。その際外壁の不具合を発見改修につなげた。教職員からの情報で、門扉車輪脱落を改修。年度末に、校地内植栽・高木の伐採、農場の急こう配解消工事、昇降口横の通路となる箇所の段差等解消工事を実施した。

	教職員の働き方改革の推進と長時間勤務の縮減	行事、業務を精選し、教職員の多忙感、負担感の軽減を図る。またICT活用を積極的に進めことで業務の改善も図り、時間外勤務の削減を進る。 【 「時間外在校等時間 月45時間以内」 の目標達成率（月平均） A：100% B：95%以上 C：90%以上 D：90%未満 】	B		衛生委員会を毎月1回、12回開催した。毎回校医の先生にも参加いただき、感染症に対する助言や情報を共有いただいた。校内SNSを活用し、衛生委員会NEWSも9回発行するなど、職場環境に対する意識の高揚に努めた。ICT活用も進み、時間外勤務時間月平均45時間を超えた教職員の割合は、2.1%だった。
学習支援	観点別評価および指導と評価の一体化の推進による学びの充実	観点別評価および指導と評価の一体化に関する校内研修会を実施し、評価方法の改善、生徒の学びへの意欲向上を目指した授業改善を行う。 【 授業アンケートの肯定的評価（生徒） 項目：授業は満足できる A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 】	A	A	年度当初に指導と評価の一体化に関する研修を実施した。1学期を終えた夏休みには観点別評価に関する研修を実施し、実践交流を行い、授業改善につなげた。また、公開授業週間を設けて授業交流も行った。 授業アンケートの「授業は満足できるものであったか」の質問に対する「当てはまる」「やや当てはまる」の回答が93.2%
	学習用端末の活用による、わかる授業づくりと、情報モラル教育の推進	校内教職員研修等で積極的にICT機器やアプリを活用することにより教職員自身が実践を行い、授業にも活用できるようにする。 ICT機器を安全かつ効果的に活用するために情報モラルや情報リテラシーの指導を行う。 【 学校評価アンケート（生徒） 肯定的評価 項目：ICTを活用した学習活動が充実 A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満 】	A		教育DXとSTEAM教育に関する教職員研修を実施した。また、teamsやロイロノートを授業やホームルームにおいて活用している。 学校評価アンケートの「ICTを活用した学習活動が充実している」の質問に対する「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答が85%
	適性や能力について生徒自身の理解促進、ソーシャルスキルの向上	1年次「産業社会と人間」における適性・能力理解やソーシャルスキルトレーニング、2年次・3年次での系列による学びを通して、自身の興味関心や適性の理解を促し、主体的に進路選択する姿勢を育てる。 【 卒業年次生の進路希望調査「未定」率 A：0% B：5%まで C：10%まで D：15%以上 】	B		1年次は毎日10分間の「産業社会と人間」の授業でソーシャルスキルに関する授業を実施している。2年次以降は系列授業の中で体験的な活動を取り入れ、学びの深化と興味関心の拡大を目指している。 4月段階の卒業年次生の進路希望調査「未定」は2%（1名）。

生徒支援 安全教育	課外活動（部活動、ボランティア）を通した、生徒の社会参画意識高揚	ボランティア活動や地域連携授業への参加を推奨する。 部活動への加入促進と同好会など生徒の主体性を活かした新しい活動の育成活発化を図る。 【 学校評価アンケート（生徒） 肯定的評価 項目：部活動やボランティア活動は充実 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】 【 ボランティア活動、地域連携授業等へ参加生徒人数計 A：100人以上 B：80～99人 C：60～79人 D：60人未満 】	B	B	陸上競技部、卓球部、ソフトテニス部が京都府代表として全国大会に出場する活躍を見せた。また、バドミントン部も近畿大会出場を果たした。陸上競技では、2年生男子生徒が全国大会6位入賞を果たした。 文化部においても、イラスト部と書道同好会が丹後高校文化祭典に出展した。 部活動に関する学校評価アンケートでは肯定的評価は89%であった。 丹後100kmウルトラマラソンでは25名の生徒がボランティアスタッフとして参加し全国から参加しているランナーの力になることができた。参加者は18名であった。
	命の教育、人権教育の推進	卒業までを見通して計画的に人権学習を進めるとともに、学校生活のあらゆる場面を通じて命を大切にする気持ちを育み、人権意識の高揚を目指す。 【 年間実施回数（人権学習・命の教育等） A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回 】	A		1・2学期には各年次に計画した人権教育を実施した。夏季休業中には外部より講師を招き教職員研修を実施した。 その他各分掌にもお世話になり人権学習関連の授業・講演などを行った。
	生徒会活動を通した、生徒の自治意識の高揚	生徒会行事（球技大会、学校祭など）の計画・運営や、様々な企画に取り組みせることで、組織作りの大切さと達成感を学ばせる。 【 学校評価アンケート（生徒） 肯定的評価 項目：学校行事は充実している A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】	A		球技大会、学校祭ともに生徒会が主体的に企画運営に携わり、成功に導くことができた。毎週月曜日の昼休みに定例の生徒会会議を開き、日常的な活動を通して生徒会執行役員としての自覚を高めることができた。2学期後半から生徒会メンバーで昼休みに校内放送「清新ラジオ」を行い、好評であった。 学校評価アンケートでは肯定的評価が92%であった。
進路支援	卒業後を見据えた進路指導の推進	全学年に向けて進路講演会、進学就職ガイダンス、分野別説明会などのキャリア教育を推進する。 【 年間実施回数 A：10回以上 B：8回 C：6回 D：6回未満 】	A	A	現在、進路講演会5回、分野別説明会3回、進学説明会3回、就職説明会7回等、キャリア教育の充実が図れた。 今後もキャリア教育を推進し、将来へのキャリア意識の向上を図る。

		職場体験・インターンシップ・勤労体験学習等の体験活動の充実を図る。 【 インターンシップ後に実施するアンケート（生徒） 肯定的評価 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】	A	夏季・冬季インターンシップ等の報告によると、肯定的評価は90%以上となっている。特に応募前の職場体験を重視し、職業適性を意識させることができた。 春季インターンシップでは、就職希望者と勤労体験学習予定者を中心に取り組んでいる。
	希望進路の実現	進学・就職指導を充実させ、卒業生全員の希望進路の実現を目指す。 【 卒業希望生徒の進路決定率 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満 】	B	46名の卒業生のうち、45名が進路を決定し、決定率は98%となった。全教員によるチューター制で丁寧な進路指導ができ、スムーズな進路決定につながっている。 課題としては、今年度に進路決定ができない生徒がいたことや、各種支援が必要な生徒への対応があったため、来年度に向けて検討を進める。
教育相談 健康教育	健康教育の推進と充実	生徒の実態に即した保健指導（歯科・睡眠）、性教育を実践する。 【 保健指導の年間実施回数 A：7回以上 B：5回 C：3回 D：2回以下】	A	B 保健指導は年10回、性教育は目標の各年次1回実施できた。今年度はじめて学校歯科医と連携した保健学習（1年）や歯に関するグッズの展示、養護教諭による保健学習（3・4年）、三者面談等での受診喚起、個別の追指導を実施した。その結果、歯科受診率が36%（昨年度12%）と向上した。
	教育相談体制、特別支援教育体制の充実	生徒を理解・支援するために、関係分掌と相互に連携し、見立てや方向生を検討する。 遅刻欠席者の背景確認とその対応のため、担任と連携する。 対象生徒の個別の指導計画を作成・共有し、全教職員が関わり活用できる仕組みを構築する。 スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー等の専門性を十分に活用する。 【 個別の指導計画活用率（年度末の教職員アンケート） A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満 】	C	個別の支援Coが年次部会に参加することで、年次部と情報共有や連携がしやすく支援の方向性の検討につなげることができた。また必要に応じてSCやSSWの見立てを支援検討会議で報告した。SC、SSWへの情報提供の方法について見直し改善したい。また今後は他分掌との連携も充実させていきたい。 毎日の遅刻・欠席者を把握し、年次部との連携に努めた。欠席等の多い生徒には、養護教諭による健康面談を実施し保健指導をすることができた。 個別の指導計画は一斉作成（見直し）日を設け、地域支援センター及び多くの教職員が

				関わる体制が作れた。また目標等を一覧にまとめ、全教職員で共有した。今後もアドバイザーの先生方からの助言をいただきながら、より活用できる方策を検討したい。
--	--	--	--	--

学校関係者評価委員会による評価	・学校校行事や生徒会活動は、生徒が主体的に取り組み、内容も充実してきている。 ・広報活動では、Instagramを開設するなど、発信の媒体を広げ、多様な年代への発信に努めている。 ・生徒が自身の健康に目をむける取組の内容とその充実は評価できる。 ・卒業生と在校生が進路に関して連携していく取組は、生徒の早期離職や退学を防ぐ上で効果が期待できる。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	・ルールやマナーへの取組に対する評価は他と比べて低い、できていないことだけに目をむけるのではなく、評価されている部分にも注目して、今度の活動を考える。 ・探究活動において地元の企業と連携し、生徒の深い学びや新たな気づき、新たなつながりを生まれるよう積極的に進める。 ・学校運営に対する評価が適切に行えるよう、評価の項目を検討する。
---------------	---